

Skill up Project 2

「静脈採血に必要な上肢末梢神経の解剖学知識」



講師

杏林大学医学部臨床検査医学部長

渡邊卓 先生

略 歴

昭和 53 年 3 月 東京大学医学部医学科卒業
昭和 53 年 6 月 東京大学医学部付属病院委員（研修医）脳神経外科
昭和 53 年 12 月 日本赤十字社中央医療センター脳神経外科医員
昭和 55 年 10 月 東京大学医学部附属病院脳神経外科医員
昭和 57 年 2 月 国立がんセンター脳神経外科医員
昭和 59 年 10 月 東京都立荏原病院脳神経外科医員
昭和 61 年 7 月 東京大学医学部脳神経外科助手
昭和 62 年 1 月 同上休職 ロンドン大学ユニバーシティカレッジ
生物学部客員研究員（平成 3 年 1 月まで）
平成 2 年 1 月 東京大学医学部脳神経外科助手退職
平成 3 年 2 月 東京大学医学部附属病院脳神経外科医員
平成 3 年 9 月 杏林大学医学部 講師（臨床病理学）
平成 6 年 8 月 杏林大学医学部助教授（同上）
平成 13 年 4 月 杏林大学医学部臨床検査医学教授，
同付属病院臨床検査部長
平成 26 年 4 月 杏林大学医学部長、医学研究科長
現在に至る。
学会活動等
日本臨床検査医学会評議員 日本臨床検査自動化学会評議員
日本臨床化学会評議員 日本脳神経外科学会評議員
日本臨床検査専門医会幹事

司会：星 孝夫（獨協医科大学越谷病院）

神戸 考裕（関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所）

「静脈採血に必要な上肢末梢神経の解剖学知識」

臨床検査を目的とする採血は、比較的簡便かつ安全に実施可能な上肢の静脈で行われることが多い。上肢での採血にあたって注意を要する合併症の一つが、穿刺による神経組織の傷害である。傷害の部位や程度などにより運動・感覚障害が出現する可能性があり、被検者の Quality of Life に大きな影響を与える可能性を否定できないので注意を要する。発生頻度自体はそれほど高いものではないが、検査室等で行われる採血の実施規模を考えると、採血現場でこの問題に遭遇する可能性は、無視できないものと言えよう。

採血時の神経損傷の可能性を低減するためには、まず上肢における主要な神経の走行、分布を

理解し、これを考慮に入れて穿刺部位や穿刺方向・角度などを決定することであろう。本講演では、採血に関連の深いと考えられる上肢の主要な神経の走行について解説するとともに、これら解剖学的所見に基づいた血管の選択、穿刺法などについても言及する。なお、その傷害により手指の運動・感覚障害を引き起こす可能性があることから、特に肘窩部での採血時に最も注意を要する正中神経について、我々は超音波画像の解析に基づき、その走行を簡便に推定する手技を開発したので、これについても紹介する（Ohnishi, et al., Ann Intern Med, 2009）。